須賀川市教育研修センターだより　第 132 号

「みち」

令和５年 ３月１５日　発行

春を告げるセンターの花

センターだより「みち」も今年度最終号となりました。2022 年度は、WITH コロナの中で急激な ICT 化が進み、学習面では学びのツールとしての効果が出てきている反面、身体面では視力低下や肥満傾向の子どもたちの増加、さらにマスク着用の長期化による心理面への影響も懸念されます。１月には、文部科学省委託研究「コロナ禍が学校・児童生徒に及ぼした影響」についての研究の結果が報告されましたが、2023 年度は、その結果を参考にしながら学校教育の在り方が問われる年になるのではないでしょうか。

この１年間、教育研修センターの事業を活用していただきありがとうございました。次年度も積極的な活用をお願いいたします。

２月に教育委員会主催で実施しました二つの事業を紹介します。

令和4年度須賀川市第3回授業づくり研修会　＜2月24日＞

須賀川市立第三小学校において、須賀川市第３回授業づくり研修会が実施されました。今年度は、感染症予防対策を講じた上で、会場校をはじめ、各学校の先生方にもご参集いただいて開催されました。講師の学習院大学文学部教授　秋田喜代美先生には、子どもたちの学びの様子を直接ご覧になった後、ご指導をいただきました。

授業は、４年国語科「初雪のふる日」で、子どもたちは、本文を音読して感じ取ったことを友達と交流しながら、場面の様子や女の子の気持ちを想像して読み深めていました。

秋田喜代美先生と授業者、参加者とが交流しながら授業を振り返り、講話のテーマである「対話する授業」について考えることができました。特に国語科では、子どもたちや教師が常にテキストの言葉と向き合いながら授業を展開していくことを大切にしていきたいと感じました。

第4回　須賀川市学校地域保健連絡推進協議会の開催

今年度も２月１６日に須賀川医師会・須賀川歯科医師会・須賀川薬剤師会・岩瀬地区小中学校長協議会代表・市内小中学校代表養護教諭・教育委員会学校教育課・子ども課・健康づくり課の「須賀川市の子どもたちの心身の健康づくりに携わる立場の方々」が一堂に会し、話し合いが持たれました。

今年度は、コロナ禍での健康診断の実施状況が各校で一律でなかったという課題があったことや、須賀川市の子どもたちの健康課題である肥満・視力低下の状況が年々悪化しているという現状から、その対応についてそれぞれの立場から意見を出し合いました。特に、須賀川市の子どもたちの健康課題の対策については、小中学校での対策だけでなく幼児からの対策が必要であるという認識のもとに、参加者全員で課題を共有しました。

その後、来年度に向けてそれぞれの立場で取り組んでいくことについて具体的な方策を出し合い、今後検討して進めていくことを確認しました。

来年度の健康診断の実施方法やその他の確認事項については、後日教育委員会からお知らせが配付されますのでご覧ください。

今年度のセンター事業を振り返ってみました！！

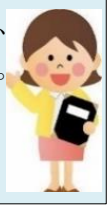
各学校におかれましては、今年度も教育研修センターを活用していただきありがとうございました。センターの職員からの「ひとことコラム」をお届けします。

▸「わかりましたかー？」「はーい！」
この「はい」ほど疑わしい「はい」はない。教頭先生の「はい」みたいだね。(^▽^)　（某校長先生談）
▸綱引きの練習は、入場から退場までの流れが主だけど、全日本綱引き選手権大会の選手の引く姿勢や綱の持ち方・引き方…など、子どもたちは学ばなくていいの？（某校長先生談）

この一年間、様々な研修を通して、子どもたちの学びを見取ることや、これまでの指導のあり方を見直すことの大切さをみなさんと学んできました。これからも「謙虚さ」と「前向きさ」を大事にしていきます。　（本多）

初めての転勤を迎えようとしている若い先生方の「不安で不安で・・・」と涙ぐむ姿を見てこの１年間の指導を反省しました。自信をもって新任地に着任できるよう背中を押してあげなくてはいけなかったと。校長先生をはじめとする現場の先生方とチーム意識をもって、若い先生方のニーズに応えていくこと、孤独にさせないこと、が大切だと感じています。

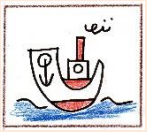
これからの須賀川の、福島の教育を担っていく若者とともに学んでいきます。　（添田）



『チーム学校』の強さを感じた一年でした。「できない」からは何も生まれず、高い壁が立ちはだかる問題ばかりでしたが、「どうしていきたい」と思うことで先生方一人一人がその問題を自分のこととして捉え、子供たちの居場所作りを考えてきました。その後も、ケース会議を効果的に開催し、学年、管理職、外部関係機関との連携を図り、既存の方法だけでなく、新たな取り組みにもチャレンジしてきました。その根底には子供が安心して過ごせる居場所作りを第一に考えた学校の思いがありました。担任一人ではできなかったこともチームで取り組んだことで子供だけでなく、先生方にも笑顔が見えた『チーム学校』の姿でした。　（七海）

今年度も教科教育、パワーアップ、ジャンプアップ研修などで、多くの先生が道徳の授業に挑戦してくれました。他校、他市町村の実践から学び、取り入れ、挑戦を続けた先生方の姿に接し、道徳担当者として大いなる喜びを感じてきました。今年度の成果は「須賀川モデル第５版」にまとめました。この成果を生かして、来年度も多くの先生方が道徳の授業に挑戦されることを期待しております。

ありがとうございました。　（渡邉）



ジャンプアップ研修、教科等教育研修を通して、多くの先生方の授業を参観させていただきました。研修に参加された先生方が、意欲的に授業改善に取り組んでいる姿を見させていただき、たいへん有意義な時間を過ごすことができました。授業後の協議でも、自分からこうすればよかった、このような改善点があるなど、前向きな反省が多くもっとよい授業にしたいという意欲を感じました。研修を通して学ぶことの大切さをあらためて実感しました。ありがとうございました。（春山）

私は、養護教諭支援事業やすこやか教室での子ども支援、須賀川三師会との連携事業、各学校へのSCとしての緊急支援等を担当しました。事業ごとに、その対象者は様々でしたが、どの支援事業においても「子どもの心身の健康ために」を支援のぶれない軸として取り組んできました。そして、私以上に、それぞれの場の担当者が子どもたちへの熱い思いを持って取り組まれていました。須賀川市の未来を担う子どもたちの心と体の健康を願って。（湯田）

先人の言葉が教師の明日へと踏み出す力となります。そこで名言を紹介します。

見えない根たちの
ねがいがこもって
あのような
美しい花になるのだ

尊いのは
頭でなく
手でなく
足の裏である
一生人に知られず
一生きたない処と接し
黙々として
その努めを果たしてゆく
足の裏が教えるもの
真民よ
足の裏的な仕事をし
足の裏的な人間になれ

子どもたちの健やかな成長を願う教師の願いが根となって、子どもたちに美しい花が咲くかもしれません。

また、足の裏も根とよく似たものではないでしょうか。

教師は子どもたちにとって「根」であり「足の裏」でありたいものです。

二つの詩と文は坂村真民（詩人）によるものです。　「悩める教師のためのポジティブ・マインドセット」より